さあ　行くぞ
しっかりつかまって
用意、スタート
ばんざあい。速い速い
子供たちの歓声が
まわりの山々にこだまする

手作りとはいえ
本式のロープウェイで
国際児童年にふさわしく
常磐東小四十七名の子らが
日本晴れの秋空を翔んだ

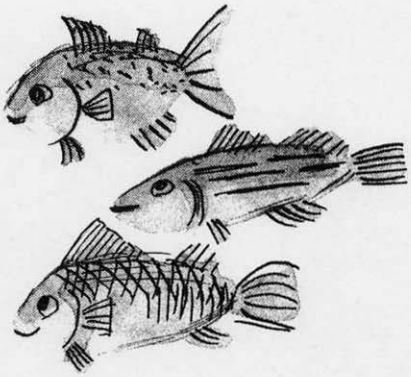
昭和54年11月1日／編集・発行／岡崎市教育委員会

（人気の的ロープウェイ―常磐東小）

— 教育随想 —

山人放談

杉原丘南



七百年の昔、兼好法師は徒然草で次のようにのべている。「造作は、用なき所をつくりたる、見るも面白く、萬の用にも立ちてよしとぞ、人の定めあい侍りし。」と。(家の普請は、平素何に使うかわからないような必要のない所を造ってあるのが、見た目も面白く、いろ〳〵の役にたってよいと人々が批評し合ったことだ。)という意味である。

私の関係している書についても同じようなことが言える。書の重要な条件の一つに余白があげられる。作品の構成の中で空間を無視しては成りたたない。作品を見るとき、多くの人は炭素の微粒子のついた黒い部分のみに目を注ぐ、作品は白い残面に黒く字が書いてあるのだから、白と黒の両方を考えなければならない。池大雅も「描かない余白に苦心する」といったそうだ。何も書かれていないところに目を注がなければならぬ。

昨年スペインへ旅行したが。スペイン式時間の使い方を心得ておかないと、買物などでも無駄な時間を過ごすことになる。商店、会社、官庁の営業時間や執務時間は概ね九時半から十三時半、十六時半～十九時半で、昼休みの長い事が著しい特徴となっている。この間、市民は自宅でゆっくりと食事をとり、昼寝をしたり、カフェで新聞を読んだり、公園を散歩したりして過ごす。深夜十二時頃が街の賑わいの最高潮となる。港の街バルセロナでフラメンコを見ての帰り、公営の定期バスにのったのが午前二時だった。この国も吾々の目からは、はなはだのんびりしているように見受けられた。

最後に或主婦が御の頃自動車の教習所へ通うようになった話。その理由はこうだ。小三の子供が学校から帰っても、近所の子供達はそれ〴〵の塾通いで遊んでくれる友達が見当らない。ご自分の子供も珠算と水泳に通わせることにした。

比の頃は日が短くなって送り迎えは車でなくてはとても間に合わない。したがって母親の教習所通いになったとのこと。成長期の子供に大切な遊ぶ時間がなくなってしまった。母親も息苦しいいそがしさに追いこまれてしまったのだ。水泳や珠算通いが悪いと言うのではない。このような考え方で子供の教育に当ることは、新幹線の車中で駆足するに変らない。

人は自分の体に何かの異変を感じると、目なり耳なり内科の医者へなりでかけて診察を受け、体を正常に保つように努める。然し物の考え方、心の持ち方と言った点では、自分の言行は中正なものとばかりきめこんで、片寄った方へ進んでも、気付かないことが多い。いや気付きながらもこれを破ることはお互い仲々に出来難いものだ。

悠々生活を楽しんでいるスペイン人と日本人との時間の使い方の差、「描かれない余白」或は「無用の用」を取入れて、生きるだけの呼吸の長さに欠けた日本人に問題がある。現代日本の病弊の大きな原因はこんな所にあるのではなかろうか。ゆとりある心を養う教育の必要を痛感する。

(書家)

なめられる

伊藤康司

森と湖の国、カナダを旅した時のこと。バンフからロープウェイで、山の頂上に登り、眺めたカナディアンロッキーの山々の美しいことと、帰途に立ち寄ったエメラルドの湖水と緑の森の美しさは、目を見はるものがあった。

また、日本では簡単に乗れないセスナに搭乗したことである。ただ、たんに乗ったというだけではなく、飛行中に生まれてはじめて操縦桿を握り、簡単な操縦をすることができたのが、最高によかった。一度はやってみたいと思っていたことのひとつでもあった。あとで聞いたところによると、ツアーに操縦をさせるのは、飛行場の社長がパイロットをつとめた時だけとのことであった。全く運がよかったというものである。

このことに気を良くして、次は、乗馬を試みた。ところが、馬は大きな眼でじろりとこちらを見て、新米と思ったのかすぐに歩き出さない。やっとスタートしたものの、馬が走るたびに馬の背でわが

岩谷観音

岩中（いわなか）のバス停で下車し、坂道を北へ五百メートルほど歩くと、村はずれに観音様の千本旗の立っている寺林がある。その寺林の中に、岩谷観音、白山神社、隣接して西方寺と三つの神仏が集っている。これは、日本古来からの神仏混合の典型である。

「岩谷観音」の歴史は複雑で、聖観世音菩薩は、三度もその場所をかえている。隆頓（りゅうとん）〈西方寺住寺僧、元文年間〉が書き残した「三洲額田郡中山荘岩屋村大巌山西方寺」（縁起書）によれば、

「そもそも聖ヶ峯には、白山神社の神祠があった。今から千二百五十年ほど前に行基が、東国教化のおり、この聖ヶ峯に登り、そこにある巌窟を見て『これは聖者の鎮居である。』と巌窟を礼拝した。さらに行基は、座禅するのに適**した岩の上に座禅をし、霊木**を採って一刀三拝御長二尺（約六十センチ）の聖観世音菩薩の尊像を彫刻して、巌窟の内に安置した。」

とある。これが岩谷観音の初めである。

その後、この尊像は、参拝者の便を考え、西方寺に移され、氏神として祭られた。

さらに、寛政十二年（千八百年）、現在の観音堂が建立されると、尊像は観音堂に移され、西方寺は阿弥陀如来が安置され、現在に至っている。

本堂から左右に、二つの参道がある。岩の多い表参道、雑木林の間を縫う裏参道のいずれかを登ると、奥の院に着く。

そこには、巨岩がいくつか重なり、最初に聖観世音菩薩を祭った祠をつくっている。これらの巨岩は、野づら石で奇妙な組み合わせをしている。ある考古学者は、その奇妙な組み合わせから、これらの巨岩は自然の産物ではなく、「紀元前の為政者が築造したもの」と説明している。

奥の院から、さらに聖ヶ峯を登ると、二百八十メートルの山頂に着く。山頂付近には、説法岩、座禅岩、八州一覧岩などがあり、自然の調和を保っている。また、ここからは矢作川などを展望することができる。

岩谷観音は、安産――「古来斯里に於て絶て産難の憂ひ千に一もなし、因って子安の観音と稱す。」〈縁起書〉――の仏として、市内外を問わず、県外からの参拝者も多い。

御開帳は、十七年に一度ひらかれる。最近では、昭和五十年に行われている。当日は、二万人余の人出があり、もち投げもにぎやかに行われた。

（常磐小　小栗正貴）

ガソリン不足

杉浦　恵美子

「日本までですってえ。」と目を丸くして驚いてみせた店員の顔が忘れられない。

スモッグの町、ロスアンジェルス。ディズニーランドへの団体行動から一人外れて、スペイン系のアメリカ人とドライブ。あいにく日曜で、どのガソリンスタンドも開いているというわけにはいかない。手近なところで列に加わることに決め、待つこと三十分以上。やっと番が来たと思ったら、針がEを指すのを確認の上、「一ガロンしか売れません。」すったもんだの末、「そんなこと言ったって、私は、この女性を日本まで送らねばいかんのだ。」「日本までですってえ。」と驚いてみせはしたが、結局ガソリンは一ガロン（一ドル分）。

「忘れていた。初めからここへ来るべきだった。」と言って、列のない二軒目に到着。ここでは、車のナンバーゆえに、この日、半額で好きなだけ入れてもらえるということだった。残念ながら、スペイン語のやりとりで、わからなかった。

「さあ、満タンだ。どこに行こうか。サンフランシスコにだって行けるよ。」ユーモアの功徳を目の当りにした次第。うわさに高きカリフォルニアのガソリン不足を膚で知った。

（甲山中）

尾骶骨を打つ。手綱をとるむつかしさを尻の痛さで知った。

（六北小）

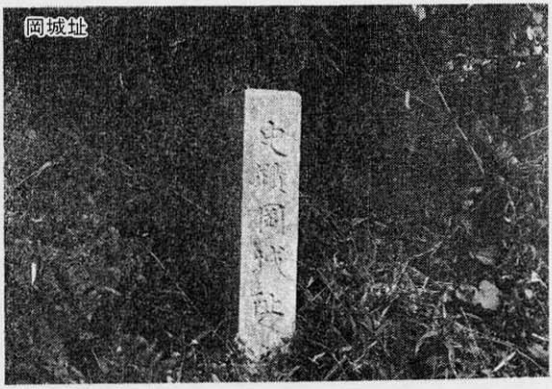
岡崎周辺 城址

応仁以来、天下麻の如く乱れ、英雄四方に割拠し、大は小を呑み、強は弱を併す。故に所在の豪族、其自衛の必要により各城廓を築き之に居る。其大小広狭素より同じからずと雖も、其城址の分明するもの八十一ヶ所の多きを算す。斯の如く多数の城址を有すること蓋他国に於ては其比を見ざる所なるべし……と額田郡誌に記されていることから市内の城址や陣屋址など資料を蒐集し再見してみた。

奥殿陣屋跡

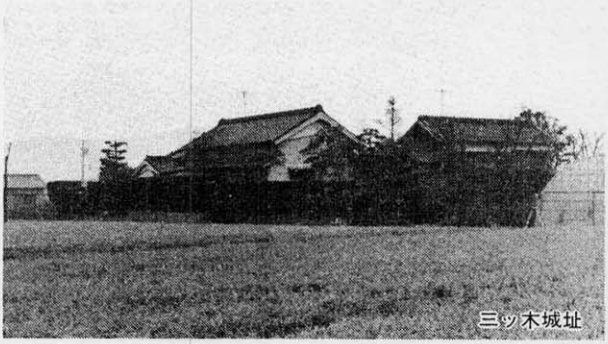
岡崎城

竜泉寺城址


岡城址

山中城址

渡里城址

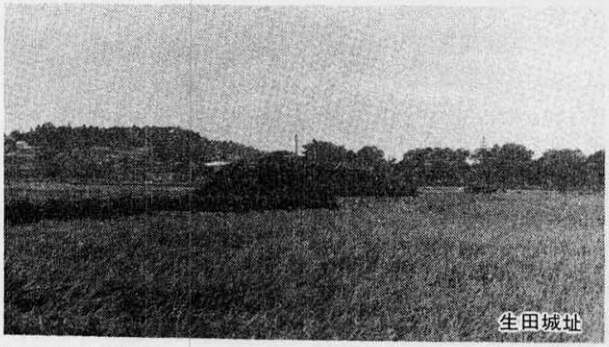


三ッ木城址

岩津城址

渡通津城址

井田城址



生田城址

教育日々

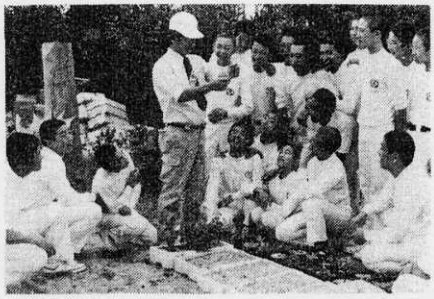
講師は生徒

福岡中　二村邦彦

「キャ、今日も作業だ、いやだなあ。」「また栽培か、土方仕事は手がよごれるし、汗がでる。電気か機械学習がおもしろくていいな。」こんな生徒のつぶやきをたびたび耳にしたものである。

生徒は、本当に栽培学習が嫌いなのだろうか、あれだけ部活動で汗まみれになっているのに何が彼等を嫌いにしているのだろうか。それは、植物に接する機会、土に触れる経験の少なさそれにもまして、植物を育てる楽しさを味わうことのない、現代の生活が、そうさせているのかもしれない。

そこで、本校の栽培学習は、草花の栽培から始めることにした。学区の神社から落ち葉を集め、それを腐葉土として、サルビア、マリーゴールド、葉ボタン等を育てた。



はじめのうちは「きたない、」「臭い、」といっていた生徒も、草丈が伸び花芽がでるころになると、もうそんなことは忘れきっている。始業前などに、灌水施肥などをしている姿がみうけられるようになってきた。植物の生長を楽しみにしているのである。

また、生徒会を中心とした、「さし木一万本運動」も、栽培の楽しさを味わうよい機会である。キョウチクトウ、ツバキ、アジサイ等のさし穂づくりから世話まで、生徒たちの手で全て行われる。その活動を通して、灌水の時期、施肥、管理の仕方など、自然に身につけていくのである。

先日、学区の婦人会の人々が学校でアジサイのさし木づくりをされた。講師となってお母さん方を指導するのは生徒達である。「おばさん、ここで切るんだよ、」「もう少し深くさしたほうがよくつくよ。」などと、あちこちで若い講師の誕生である。

さし木をみた学校長、「婦人会の人より、生徒の方が上手だな、年季が入っているからな。」、さっそく生徒の手で補植が行われた。

はじめは、興味、関心を示さなかった生徒も、機会と活動の場所を与えられることにより、活発に活動するようになってきた。

仲間づくり

美合小　桑木富士子

「あなたたちは、とてもぜいたくだと思うの。」

私のこの一声から学級会が始まった。子供たちは何のことかさっぱりわからず、目を白黒させていた。

今回の学級会の議題は「Kさんの作文を聞いて思うこと」、提案者は教師、内容も道徳に近い。しかし、学級のなかまであるK子の立場、気持ち、努力に目を向けてほしくて、あえて学級会で取り上げることにした。

K子は、今年四月、本宿の養護学校より転校してきた。外観は他児童と全く変わらないが、脊髄神経を冒され、人に話せない負い目を持ちながら、みんなと足並みをそろえようと必死である。負け嫌いで泣き事も一切言わない。何でもみんなといっしょにやる子である。

K子は、今年初めて山の学習を経験した。みんなと寝食を共に……　といきたいところだが、山の家までの歩行と、宿泊だけは、参加できなかった。その時の作文を今日の学級会に提案したのである。六枚の原稿用紙にびっしり書きこんでいたのだ。

「『あーあ、今から三時間も歩いていくのか。やだなあ。』という友達の声の中で、私ひとりが、歩いていくことが楽しいのに、と思っているようだ。…（中略）…運動場を出発していくみんなを見ていると、何だか私だけとり残されていくような気がした。」

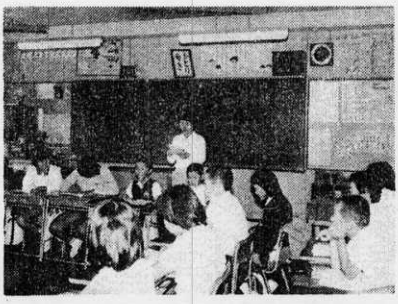
K子がこんな気持ちでいたとは、みんな思いもよらなかったらしい。読み終わった後、しばらくことばが出なかった。みんな感じたことはたくさんあったようだが、ことばになって出てこない。そこでノートに、感想を書かせた。

「治療しても治らない病気の人は、私たちのように自由に動き回ったり、泳いだりできない。なのに、歩いて行くのやだとか、体育の中で、あれやりたくないなんていうのはぜいたくだと思った。できない人のためにも、自分はその倍がんばろうと思う。」

「ぼくは、自分にあまえていると思う。」

等々、K子の作文はみんなの目を開き直させた。K子も、友達の感想を聞いて「今までと違って人の気持ちを考えていてくれる友達と思った。」と書いていた。

楽しい時も、苦しい時も、共に語り合って歩いて行きたい。



文部大臣賞に輝く
岡崎市視聴覚ライブラリー

岡崎市視聴覚ライブラリーは日本映画教育協会主催、文部省後援の一九七九年視聴覚教育賞論文で、ライブラリー部門に応募したところ、日本一の視聴覚教育賞（文部大臣賞）を得、去る十月十七日に北九州市で開催された教育の近代化全国大会で表彰された。

この論文は「視聴覚教育としてのライブラリー運営」と題し

① 単なるサービス機関でなく、能動的な指導機関としての運営

② 自作視聴覚教材の制作活動の積極的な推進

③ ビデオ部門の充実とその活用を目ざすライブラリーの運営についてまとめたものである。

昭和二十九年「岡崎市小中学校視聴覚教育協会」として産声をあげたライブラリーは、昭和四十八年、学校教育と社会教育が一本化し、現在の「岡崎市視聴覚教育ライブラリー」となった。発足以後二十八年、公立化以後七年目を迎える。

なお、過去において、視聴覚教育奨励賞は、四十年と四十九年と二回受賞している。

また、視聴覚ライブラリー自作委員会の製作した八ミリ映画「しめなわ」は日本学校視聴覚連盟、全国学校視聴覚連盟等の主催する全国自作視聴覚教材コンクールにおいてみごと全国入選した。

これは大門のしめなわ作りを撮影したもので、充実した内容、巧みな構成、編集の技術が大きく評価された。

〔寄贈刊行物・資料等〕

◆明日の教育を考える
冬季研修会講演集①
冬季研修会実行委員会編

第五回冬季研修会の講演記録集。森信三氏はじめ七名の講演全文を収録。第一回からの研修会のあゆみも併載。

第6回 岡崎市中学校新人体育大会 《水泳競技の部》

昭 54.9.15

●総合成績

	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子	葵	甲山	矢作	竜海	福岡	城北
	35	33	31	19	18	17
女子	甲山	矢作	葵	福岡	南	岩津
	65	54	21	12	7	6

●個人成績

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100M自	小串 重治	甲山	1′04″4	佐々木 綾	矢作	○1′08″4
400M自	石井 理一	矢作	5′08″7	稲垣さゆり	矢作	5′58″3
100M平	麻生 秀紀	矢作	1′18″4	太田 礼美	福岡	1′28″2
100M背	遠山 健志	竜海	1′19″6	中根千代子	甲山	1′22″4
100Mバタフライ	甲村 達也	附属	1′12″9	酒井 香江	葵	●1′15″7
200M個人メドレー	山田 哲郎	城北	●2′32″7	粂 雅子	甲山	●2′51″8
400M メドレーリレー	中根 池戸 永谷 小串	甲山	5′07″1	中根 小畑 粂 野村	甲山	●5′ ″4
800Mリレー	滝川 山田 石原 竹内	葵	9′57″3			
400Mリレー				野村 天野 小畑 粂	甲山	4′34″7

●大会新記録　○大会タイ記録

■優秀校は愛宕小と竜美丘小
ソニー理科教育振興資金

ソニー理科教育振興資金を受けた学校は、本年までに小学校十五校、中学校七校を数える。本年度の受賞校は次のようである。

・優秀校（一〇〇万円）
愛宕小学校、竜美丘小学校

・優良校（二〇万円）
竜谷小学校、福岡小学校
香山中学校、常磐中学校

◆健康優良生徒（十月二十五日）

岡崎一　附属小　越智敬三
本宿小　植松　園
岩津中　宮川正三
六ッ美中　志賀智子

準岡崎一／六北小川合謙和／常磐小坂崎茂一／羽根小日高弘美／緑丘小増田純子／東海中樹神直也／福岡中岡田嘉則／河合中木村文子／福岡中山本友美枝

◆昭和五十四年度自作TP作品

本年度TP作品の応募点数は次のようである。

（小学校）国語11社会12算数17社会12理科7音楽2図工1体育3道徳2保健7（中学校）社会4数学3理科9音楽1技・家3英語2特活1保健1

合計八十九点中、入選四十五点

明神渡船場跡

所在地—岡崎市上六名町

先月、台風二十号の豪雨のために明神橋の橋脚が沈下し、二四八号線が不通になって、ひどい交通まひになやまされた。

ところで、その明神橋が初めて架設されたのは昭和三年、それまでは渡し舟でこの川を往来していた。大正十二年に愛電の鉄橋がかかり、昭和二年には殿橋も改築されている。この渡しは東海道を松葉から南に折れ、六名を通って土呂、蒲郡へ、また、堤防沿いに天白をぬけて六ッ美、西尾へぬける重要な地点であったにもかかわらず、交通のネックにしたままであったのは不思議な話である。

渡し舟は右岸の河川敷から左岸の明神さん（三島神社）の境内下まで、舟頭さんが二人で渡していたそうである。つい、数年前、河川改修工事の行われるまでは左岸の舟付場の方はほぼ昔のままの姿で残っていた。

渡船場跡の石碑は、左岸の石段を登り切ったところに草に埋もれている。そして、渡しのあったころは近郷近在に信仰の厚かった三島神社のいぼ地蔵さんも、今は境内のどこをさがしても見あたらない。

●カット　大門小　宇佐美玲子

オアシス

おつにすましたI氏。いつもの体操服をぬいで、モダンなネクタイに新調の背広。朝の挨拶もきりっとしまっている。

玄関の前に飾った菊の露よけに昨夜来の雨がたまってしなっている。I氏。それを捨てようと手をふれると、ざあっと水が流れた。「水もしたたるいい男。辛い。」彼のぼやくこと——

心配そうな顔をして、「先生、今日の合唱どうだった。」と生徒。知ったような顔をして、「この前より良かったが、もう少し大きな声を出せよ。」とオンチの私。

ピアノにエレクトーンは女子、男子も負けずにギターで伴奏。生徒たちの特技に驚かされる文化祭シーズンである。

「ああ、あと十分あったらなァ。そうすりゃあの問題ができて十点は多くとれたのに、順位なら五十番くらいは……」

「とらぬたぬきの皮算用、そうなりゃ、ほかの子だってできるからたいしてかわらないサ。」

「そういうなよ、ほんの少しでも希望を持っていたいんだから……。」

スドーシ・ホンバツといったキノコは、山に入るとずい分あった。虫の食っていないきれいなものを採ってくると、母親がよく煮みそにしてくれた。

鍋で煮ながら食べる味は、また格別だった。こんなキノコも今では見当らない。伊勢湾台風の後遺症ともいうのだろうか。寂しいことだ。

この本を

○手づくりあそび	石井　正子	
主婦の友社		¥ 980
○日本史と動物	小池　長之	
日本文芸社		¥ 650
○落ちこぼれ家庭	藤原　審爾	
新日本出版		¥ 850
○食物と日本人	樋口　清之	
講談社		¥ 980
○残　照	鈴木弥一郎	
		¥ 1,800
○比　叡	瀬戸内晴美	
新潮社		¥ 1,300
○おしまいのページで	獅子文六他	
文芸春秋		¥ 1,200
○三分間説教	三好　京三	
主婦と生活社		¥ 680
○和　魂・洋　魂	加藤（ヨゼフ・ロゲンドルフ）　恭子	
講談社		¥ 980
○私を支えている母の一言	阿部　進他	
日本国際連合協会		¥ 980